



リハビリ友の会に参加して

エプロン通信員 城間 ちえみ

十一月に入り、日増しに秋も深まってまいりました。
今回は、宜野湾市「リハビリ友の会」を紹介いたします。

近年、生活習慣病から来る脳卒中や脳梗塞などの後遺症で、半身麻痺や言語障害などのハンディを背負ってしまう方々が増えていきます。「リハビリ友の会」は、脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進並びに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図ることを目的とし、会員同士の親睦を深めるため、月に一度、新年会・交流会・ピクニックなど様々なイベントの定例会をもちています。

今回は十月十六日(木)午前十時から保健相談センターで、「ヘルシー調理実習」が行われました。

生活習慣病の予防ということもあり、栄養士さんの献立で、保健センターの職員、生活改善推進員の二人も協力して頂き、油を使わないパイイリチー・マーボナス・フルーツカクテルのせ杏仁豆腐・わかめスープの四品を作り、会食しました。皆さんエプロンをつけ、三角巾をかぶり必死に包丁を握りながら調理していました。皆、自分で作っただけに充実感をかみしめながら、美味しく料理を頂きました。

私も生後まもなく脳性小児麻痺の後遺症で四肢機能障害・言語機能障害のハンディを持

って生きている一人として、会員の皆様の辛さや痛みをほんの少しでも解りたいと思っています。

私とは違い、人生途中での障害だけに、立ち直るのも大変だったはずですが、それでも、前向きに生きている姿にある意味、人生の哲人だと思いました。ハンディを乗り越えるのは本人自身の努力は勿論の事、家族や社会の協力も大事です。しかし、宜野湾市には、リハビリ施設がないのが現状です。

脳卒中の後遺症というものは、本当になった当人にしか解からない辛いものかもしれません。しかし、お互い切磋琢磨していく中で、人生の価値を見つけられるチャンスが来たと前向きに生きていきたいものです。

宜野湾市「リハビリ友の会」は宮城徹夫会長を中心に良くまとまった素晴らしい会だという印象を受けました。



リハビリ友の会では、新会員を募集しています。

連絡先：宜野湾市社会福祉協議会
(「リハビリ友の会」・宮城まで)
TEL/892-6525 FAX/892-0843



茶 ぐわーゆんたく 55

すずらん通り・命名五〇年

かつて普天間開放地と呼ばれた現在の普天間三区一帯は、一九五三(昭和二十八)年に米軍から土地が開放され都市計画が進められました。特に開放地の中通りは繁華街とする計画で進められました。

その後、一九五八(昭和三十三年)十月には、通り会が結成されました。通り会では、通り名を懸賞付きで一般から募集したところ、一八五人、三七〇点の応募がありました。審査の結果、五八年十一月、すずらん通りと決まりました。応募者の中からコザ市・石川市・宜野湾村の人計三人が入選し、この中から抽選を行い、コザ市の人が入賞を果たしました。入賞者には賞金二十ドルが贈られ、他の二人にも記念品が贈られました。すずらんは文字通り、鈴蘭の花がモチーフで、当時の通り会会長からはすずらんのように美しく繁栄することを祈りたいとのコメントが寄せられました。通りには、すずらん灯が設置され、米人相手の飲食店が中心とあって、米軍人の

給料日にあたるペーデーには、特に賑わいを見せていました。あれから五〇年が経ちました。今では通り入口のアーケードやすずらん灯も別の形に変わり、通りの雰囲気も変わりました。しかし、今でもすずらんゆんたくを用いたお店やビルがあり、その面影を留めています。



現在(2008年)の通り



ペーデーで賑わうすずらん通り(1969年)

宜野湾市史への問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三二四四三〇